次世代に引き継ぐこと

鎌倉市支部　野田頭　佑（子）
戦没者　野田頭　剛
戦没地　トラック島

終わっていない戦争の傷跡

終戦時私は五歳、妹三歳、弟は出生直後でした。戦後六十五年、あっという間の出来事のように、人生も終盤を迎えつつあります。

夢中で生きてきた現在、私には言い残すことが数々あります。

まず、駆り出された私達の親父や、ご兄弟が命を張り、祖国や家族の安泰を願い散ったはずの事実が、果して祖国にどのように反映されているか、ということです。ひとくちに言えば、結果は我が国に平和をもたらしましたが正しい評価のないままの現在に、怒りさえ覚えます。

長いあいだ黙して語らずの直接の関係者や各機関は、重く固い口をやっと開き、亡き戦没者に代わり、真実を語り始めました。

しかし、実態を語ることはかなりの勇気がいる訳で、当然です。時にラジオ、テレビなどに苦

©2011_財団法人神奈川県遺族会

渋の声や顔で、「硫黄島では、生き延びるために、血混じりの泥水を口に、身体に湧いた蛆虫を食べ、また、自分のウンチを食べ生き延びた」などの報告があり、まるで生地獄です。

さらにショックなのが、食糧のない元ビルマのインパール作戦での生き残りの兵士の話として、仲間の兵士が作戦中敵弾に倒れた時「俺の身体が温かい内に喰ってくれ」と言って息絶えたことなど、生々しい証言があり、まさに人間のすることではありません。

戦争は、まさにこのように平和な社会には有り得ない事であります。人間性を捨て、相手を一瞬でも早く殺さなければ、自分が殺されてしまうのが戦争であるからで、このように戦争はむごいのです。

一方、残された遺家族、特に我々遺児は就職時に完全にハンディを負わされたのでした。特に、一次試験にパスしても、二次試験の面接で、片親を理由に不合格。という結果を目の当たりにしたのです。片親だと万一、会社に損害を与えた場合補償できない、また片親の境遇だから悪いことをするのでは、などが告げられたとの報告が沢山寄せられたのでした。

これほど悲しいこと、侮しいことはありません。情けない事実でした。しかし、私たちは、周りの人達の応援もあり、頑張りました。英霊たちのお陰で現在は平和です。

しかし、山野に眠る遺骨の収集など一刻も早く完了しなければなりません。戦後は終わっていないのです。

今後は、これらの事実を後輩たちに語り、戦争の悲惨さを語り継ぐのが我らに課せられた課題です。靖国神社の合祀、分祀問題の今後について、折角築いてくれた先人の遺徳を無駄にせず、

©2011_財団法人神奈川県遺族会

さらに唯一の被爆国の事実などなど、我々はイデオロギーを超え、いのちと平和のため声を大きく訴えて参りましょう。

©2011_財団法人神奈川県遺族会